

平成21年度 森プロ事業実績：郡上森プロ

(平成22年3月末現在)

	H19～20年度	H21年度				5カ年	
	実績	計画	実績	達成率	備考	計画	
集約化(ha)	90	67	70	104%		223	
作業道(m)	1,950	4,685	4,232	90%	作業路含む	12,667	
間伐等	面積(ha)	54	49	34	69%	利用+切捨	218
	材積(m3)	3,315	5,042	2,383	47%	支障木含む	22,518
備考	団地外実績(利用間伐 5ha 搬出材積 805m3 作業道開設 1,663m)※材積支障木込み						

H21年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む)

2,700 円/m3

施業集約化の状況

- ・ 森プロ計画に沿って施業の集約化を実施した。
- ・ 組合内に新設された営業企画部が中心となって、他の地域においても施業集約化の取組が進められた。

施業プランの活用状況

- ・ 担当者が所有者を訪問し事業内容を説明し承諾を得ている。高齢所有者から提案書が細かくわかりにくいとの意見があり、現在改良中。

施業プランナーの養成状況

- ・ 施業プランナー：4名
- ・ H19:1名、H20:2名、H21:1名

作業道の状況

- ・ 10tトラックの走行を想定し幅員3.6mを標準とする幹線路網を優先して開設。
- ・ 設計、先行伐採、管理は、森林組合、施工は、外注により実施した。
- ・ 災害に強い道作りのための研修開催等により技術の向上を図り、横断排水溝の適切な配置など雨水処理に配慮した道作りを心掛けた。



【作業道平沢線】



【災害に強い道作り研修(9/30)】

作業システムの状況

- ・ 長伐期施業における中齢級の間伐を列状により実践
 - ・ 平成21年度 素材生産性 約9.9m³/人・日(伐採～積込まで)
 - ・ メインシステム:伐倒(チェンソー)→集材(スイングヤーダー)→造材(プロセッサー)→積込み(グラップル)→運材(10tトラック)
- ※作業道の状況によりフォワーダーを活用
※スイングヤーダーにより80m程度まで集材
※必要最小限の機械により作業を実施(基本は、グラップルヘッド付きスイングヤーダー、プロセッサー)



【集材工程(スイングヤーダー)】



【造材・運材(プロセッサー、グラップル、10tトラック)】

その他

- ・ 中間土場を設置し、検地・選別を行い、市場、工場(システム販売)等へ効率的に輸送した。
- ・ 地元製材工場等へ直接販売(葉枯し材)
- ・ 良質材の選別を正確に実施するとともに、出荷時期の調整等により売値単価のアップを図った。
- ・ 残存木の損傷を軽減するため現場指導を行った。



【寒水 深谷 葉枯らし材生産現場】

森プロの成果

- ・ 組合内で切り捨て間伐から利用間伐への意識醸成が図られるとともに、施業集約化特別チームが新たに組織され、森林整備、路網開設、林産部門の連携強化・集約化の体制が整えられた。
- ・ 必要最小限の林業機械を効率的に活用する生産システムが確立され、所有者への利益還元が図られた。
- ・ 新たに林産班会議を定期開催することとなり、技術情報や各班生産状況等の情報共有の場が確保された。

今後の課題

- ・ 災害に強い路網開設技術の習得(適切な雨水処理、施工法等)
- ・ オペレーター技術の向上(残存木損傷軽減、メンテナンス経費軽減等)
- ・ 梅雨時期の生産量確保(事業地確保、有利販売手法の検討等)